

《担当者名》桜庭 聡 s-saku@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

ディプロマポリシーに掲げられた5つの要件を満たす前段階として、高次脳機能障害作業療法学で習得した知識、技術を臨床場面で実践できるよう高次脳機能障害に対する神経心理学的検査、行動学的検査を実施し、その評価方法や結果の解釈について学修する。高次脳機能障害の症例を提示し、評価および治療についてグループごとのプレゼンテーションおよびディスカッションなどを実施する。

【学修目標】

臨床の場面で実践できるように各種評価方法治療法の選定について理解することができる。

1. 高次脳機能障害例に対する神経心理学的検査を理解し、実施できる。
2. 症状に応じた適切な神経心理学的検査および行動学的評価を選定できる。
3. 神経心理学的検査および行動学的評価の結果を正しく解釈できる。
4. 症状に応じた治療方法を選定できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション スクリーニング検査	・MMSE、HDS-R、FABなどスクリーニング検査の意義と解釈 ・その後の評価、および治療への手続き	桜庭 聡
2	全般的知能	・WAIS- の実践	桜庭 聡
3	注意障害	・標準注意検査法(CAT)の実践 ・Trail Making Test日本語版 (TMT-J) の実践 ・Moss Attention Rating Scale(MARS)の実践	桜庭 聡
4	注意障害	・介入方法とその理論について学ぶ ・事例を通して評価の項目や手順、具体的な介入方法に関する理解を深める	桜庭 聡
5	半側空間無視	・半側無視行動検査 (BIT) の実践 ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
6	半側空間無視	・半側空間無視の事例を通して評価の項目や手順、具体的な介入方法に関する理解を深める	桜庭 聡
7	記憶障害	・リバーミード行動記憶検査 (RBMT) の実践 ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
8	記憶障害	・記憶障害の事例を通して評価の項目や手順、具体的な介入方法に関する理解を深める	桜庭 聡
9	失語	・標準失語症検査 (SLTA) の施行、採点、および結果の解釈ができる ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
10	失認	・標準高次視知覚検査 (VPTA) の実践 ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
11	行為の障害	・標準高次動作性検査改訂版 (SPTA-R) の実践 ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
12	遂行機能障害	・BADSの施行、採点および結果の解釈ができる ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
13	社会的行動障害	・社会的行動障害の評価の実践 ・介入方法とその理論について学ぶ	桜庭 聡
14	画像所見との関連	・画像所見と高次脳機能障害との関連 ・評価と治療の実際について学ぶ	桜庭 聡
15	画像所見との関連 まとめ	・画像所見と高次脳機能障害との関連 ・評価と治療の実際について学ぶ	桜庭 聡

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テストと定期試験で判定する。

小テスト：25%（5回実施：manabaの小テスト機能を用いる。PC等持参すること）

定期試験：75%（manabaの小テスト機能を用い、試験室PC持ち込みで実施予定）

【教科書】

能登真一 他 編 「高次脳機能作業療法学」 医学書院 2019年

市川和子 他 「臨床実習とケーススタディ 第2版」 医学書院 2014年

石合純夫 著 「高次脳機能障害学 第3版」 医歯薬出版 2022年

【参考書】

長崎重信 他 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「高次脳機能障害障害作業療法学 第3版」 メジカルビュー社 2016年

【備考】

資料（レジュメ）が多い演習であることに留意し、ファイリングなどを工夫すること。

【学修の準備】

高次脳機能障害作業療法学で学修した内容を復習することが必須条件となる。演習時は前期で配布された資料を持参すると学修しやすいため推奨する。

その他参考書を含む関連図書、文献を用いて事前学修・事後学修をすること。事前学修、事後学修にそれぞれ20分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

桜庭聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

身体機能障害領域の医療機関における実務経験及び高次脳機能障害・神経心理学に関する基礎、臨床研究経験を基に、臨床での高次脳機能の評価及び介入の実際を踏まえた演習を行う。